# にぎわい

【発行元】
株式会社 大兼工務店 いちご倶楽部
0748-42-1151
第40号

## ほたる鑑賞に出かけよう

♪ほう　ほう　ほたる　こい

今年もほたるの季節がやってきました。あの華やかな光の乱舞を見ていると、幻想的な世界にひきこまれていきそうですね。

昔は家の前の川にもほたるがいたのに、コンクリートの三面張りになってからほたるは現れなくなりました。生活の便利さを優先にした結果ですね。少し残念です。

初夏の風物詩として古くから親しまれているほたる。滋賀県各地でさまざまな鑑賞会が開かれていますが、今回は守山市と米原市の鑑賞スポットをご紹介しましょう。

### 米原市
### 天の川流域、三島池周辺

天の川流域の「長岡のゲンジボタル及びその発生地」は国の特別天然記念物に指定されています

鑑賞期間　6月上旬～中旬

種類　ゲンジボタル・ヘイケボタル

### ほたる祭り情報

第25回天の川ほたるまつり

期間　平成20年6月9日(月)～15日(日)

JR東海道線　近江長岡駅から徒歩5分

ホームページ

http://maibara.net/info/hotaru/20/eventinfo.html

### 守山市
### 守山市民運動公園内ほたるの森資料館および人工河川

鑑賞期間　～6月15日(土)

種類　ゲンジボタル

JR守山駅から車で5分(守山市三宅町10)

ほたるの森資料館内では幼虫も観察できます。(9時～16時30分　ただし期間中は夜間も開館18時30分～22時)

館外では自由にほたるを見ることができます。

ホームページ

http://www.lake-biwa.net/hotarunomori/

### よく飛ぶ条件と時間帯

☆生暖かく感じ、曇っていて風のない夜に多く飛びます。雨の降っている日や、風の強い日はあまり飛びませんので、ほたるの都合に合わせておでかけください。

☆一斉に飛び立つ時刻が、ほたるの習性上決まっていて、その時刻でないと、草むらの中で光っているだけです。午後7時ぐらいから徐々に飛び始め、8時台がピークとなり9時を過ぎると減ってきます。

### 鑑賞マナー

☆光は厳禁

ほたるは強い光を嫌うので、車のヘッドライトは消して、懐中電灯やカメラのフラッシュ等も控えてください

☆生息エリアを汚さない

ほたるの環境を守るため、地元住民の方が河川清掃を行っておられます。川が汚れるとほたるが棲めなくなるので、ゴミはきちんと持ち帰りましょう。

☆草むらには立ち入らない

ほたるを踏んでしまうかもしれません。

☆近隣住民に配慮する

近隣住民の方に迷惑になるような大きな声や物音をださないようにしましょう。

☆ほたるを捕まえない

ほたるの成虫の寿命は1週間程度でとても短いのです。故意に連れて帰らないでください。

### 豆知識

ほたるが光る間隔には違いがあります。東日本に生息するほたるは光る間隔が約4秒に1回なのに対して、西日本のほたるはその2倍速で2秒に1回光るそうです。西日本のほたるはちょっとせっかちなのかな？

電源の周波数が静岡県の富士川と新潟県の糸魚川を結ぶ線を境界に、西と東に分かれていますが、ほたるの光る間隔もこの境界でおおまかに分かれています。中間地点の静岡県、長野県、新潟県などのほたるは中間の3秒間隔で光ります。

ふうわり　ふうわり　光っては消え　また光り　ゆったりとした時間が流れていく　そんなほたるを鑑賞して、日ごろの疲れを癒してみてはいかがでしょう？

ひょっとしてみなさんの近くにも、ほたるスポットがあるかもしれませんね。

## キラリ まちの人

### 友政(ともまさ)　まり子(こ)さん

今回は東近江市五個荘山本町にお住まいの、友政まり子さんをご紹介します。服飾デザインも洋裁も学ばれたことはありませんが、自分が着たい服や楽しい気分になれる服を創ってみようと始められて、もう25年程になるそうです。作業はオリジナルの生地作りから、自分で綿や麻の布を買って化学染料で好きな色に染められます。それを裁断し、デザイン通り組み合わせ、縫製、仕上げの作業を経て世界に一つだけの服の完成です。アートイン長浜などの地域のイベントに出展したり、個展を開催したりと精力的に活動され、友政さんの服や袋物が欲しい人達が現れました。しかし、…友政さんにはその多くの要望にすべて応えることはできません。なぜなら友政さんには、(趣味の延長線上でプロにはならず)こだわんまり、ひっそりと活動したいとの思いがあったからです。創作活動を続けておられるある日、ハギレが山積みになっているのを眺めていると、「捨てるようなクズ布で、主人のように絵を描いてみよう」と考えられました。これが後に、滋賀県展工芸の部で大賞や特選を数多く受賞される布絵となるのです。布絵は1年で一番思い出に残ったことをモチーフに製作されます。材料はゴミとして捨てられていた、あり合わせのハギレです。ご覧下さい、どの作品も力作揃いです。私は一目で「ひまわりの絵」のとりこになったのですが…、これらは残念なことに非売品なんです。

*1990年「夏逝く」*

夏の終わり、休耕田に立ち枯れのひまわりが、その年もやっぱりわたしのようだと慰められたのでした。

今でも、真夏の太陽の下、すっくと立つひまわりよりも、晩夏のそれに心惹かれる…わたしってクライ。

*1999年「セビリアの女」*

スペインへ旅をしたとき見たフラメンコに魅せられて…

現在、友政さんが夢中になっておられるモノは草木染です。身近な草木を使ってみたら、味のある独特の色や想像もできなかった色が出ることに、たいそう感激されました。また、それらが、時が経つにつれて、味わいや深みのあるモノに変化していきます。もうすっかり、友政さんは草木染に魅せられています。栗、梅、桜、花梨、ビワ、ザクロ、ウコン、セイタカアワダチ草、剪定された杉の枝など、わざわざ山に行かなくても自宅の周りにある草木の中から、染めやすい草木を選んで染料にされるのです。染色に使う道具は、身の回りにあるものを利用して、自分で作れるものは手作りして間に合わせておられます。なかでも傑作は、ガソリンスタンドでもらったオイル缶の蒸し器。「布絵もそうなんですが、なんと言ってもタダ、廃物利用ですから…」だとか。下染めしておいた麻布に、下書き通り蝋(ろう)を置いて、煮て漉(こ)した液を刷毛や筆で塗り、乾いたら媒染液を塗りと…。この工程を何度も何度も繰り返し、濃い色をつくっていき、仕上げていかれるのです。大変な作業ですね。

友政さんの原点は、日常の暮らしの中から、何かを表現したいという気持ち。見るモノ、感じるモノ、思いのままに創作活動を続けられ、「毎年同じことを繰り返せることは、ただそれだけで幸い」と日々に感謝されています。

▲草木染のかばん

◀オイル缶の蒸し器

## さくらんぼのゼリー

梅雨の季節にぴったりなさわやかなゼリーのレシピを紹介します。

**材料【ゼリー型5個分】**

- ○さくらんぼ……15個
- ○粉ゼラチン……10グラム
- ○水(ゼラチン用)……大さじ2
- ○砂糖……120グラム
- ○水……300cc
- ○キルシュ(さくらんぼのお酒)……10cc

**準備**

粉ゼラチンを、水(大さじ2)に入れてふやかしておきます。

さくらんぼは洗って、ヘタと種を取っておきます。

**作り方**

1. なべに水300ccと砂糖を入れて火にかけます。沸騰したら火からおろして、ふやかしておいたゼラチンを加えます。
2. キルシュを加えます。
3. ゼリー型に溶かしたゼラチン(ゼリー液)を半分入れて、さくらんぼを2個入れ、冷蔵庫で冷やし固めます。
4. 30分ぐらい冷やしたら、残ったゼリー液とさくらんぼを1つずつ入れて、再び冷蔵庫で冷やし固めます。
5. きちんと固まればできあがりです。